

大関化学

大関化学工業(神戸市東灘区、津田庄平社長)の金属屋根用防水工法「HYDRA(ハイドラ)」が好調だ。使い勝手の良さが評価され、防水業者だけでなく塗装業者からの引き合いが増加している。2013年の発売以

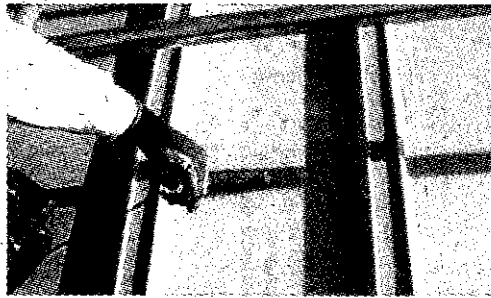
来、毎年1.5倍程度の伸びをみせている。競合品が少ない金属屋根の専用工法として一層の拡販を狙う。

倉庫や工場の金属屋根に防水工事を行う場合、コンクリート製の屋上・ベランダ向けウレタン系

金属屋根防水工法が好調

塗装業者からも引き合い

使い勝手の良さ評価



金属屋根の専用工法として13年に上市。今年の新築面積は5万平方メートルに達する見込み

防水剤などを流用することが多い。コンクリートに設計されているため、

比較的水に強い金属に使うと塗布量が多すぎて無駄が生じる。大関化学工業は金属屋根の専用工法として「ハイドラ」を13年に上市。薄塗りが可能で、建築用塗料などに近い使い方ができるため、防水工事業者だけでなく塗装業者にユーザーが広がった。需要は年を追って拡大し、今年の新築面積は5万平方メートルに届く見込み。

「ハイドラフレックス」は、トップコート「ヒートバリ」の3層構造で、プライマーは1回塗り、防水剤とトップコートは2回塗り。防水剤とトップコートは水系だが、プライマーだけは油性止め機能重視して弱溶剤系で開発した。プライマーからトップコートまでローラー施工と吹きつけ施工に対応する。コンクリート用には比べると大幅な薄塗りが可能。1平方メートルあたりプラ

改良重ね大型製品に育成

イマーは0.15ミリ、防水剤は0.3ミリ、2回塗り、トップコートは0.15ミリ、2回塗りを推奨している。金属素材はコンクリートより防水性が高いものの、大雨や積雪の際に屋根の継ぎ目などから水が漏れる事例が報告されている。ハイドラの製品化に際しては継ぎ目に当てるテープも用意した。防水材塗布前にテープで補強すると防水機能が向上する。アクリルゴム系の防水材「ハイドラフレックス」は、下地に追従する伸び率や強度のバランスに留意して開発した。伸び率が低いほどタック(粘性)が生じて施工の妨げになるが、乾燥を早めるなどして問題点を解消した。伸び率が高いため、雨音の低減にも貢献する。トップコート「ヒートバリ」は、配合した遮熱顔料の効果で太陽光の温度上昇を抑制する。大関化学はポリマーセメント系防水材「パラテックス」を中心に、建築・土木分野の防水製品を広く手掛ける。金属屋根の専用製品は初めての試み。フッ素系やシリコン系に対応するプライマーの開発を視野に入れた。ハイドラを大型製品に育成する方針。